

「天津わかしお学校」あり方検討 中間報告について

I 中間報告の概要

1. はじめに

板橋区立天津わかしお学校（以下「天津わかしお学校」）は、板橋区の運営する特別支援学校であり、ぜん息、肥満、偏食、虚弱の症状がある児童が広い自然の中で寄宿舎生活を通して、その症状を改善することを目的とする学校である。昭和42年の開校以来、区内児童の健康回復を支援してきたが、児童数の減少や施設の老朽化から、平成24年度に策定された、いたばし未来創造プラン「経営革新」編において、施設のあり方について検討することとされた。これを受け、教育委員会事務局内に検討会を設置し検討を行ってきたが、このたび一定の方向性についてとりまとめたので中間報告を行うものである。

2. 天津わかしお学校の概要・沿革

- **教育目標**：健康な子 思いやりのある子 学びとる子 けじめのある子
- **対象学年・定員**：板橋区内に住所を有し、かつ、板橋区立小学校に通学している小学校第3学年～第6学年までの児童。定員80人
- **所在地**：千葉県鴨川市天津1990
(沿革)
 - 昭和42年4月1日 「東京都板橋区立天津養護学校」開校。
 - 平成17年2月11日 天津小湊町と鴨川市の合併に伴う所在地の変更
 - 平成18年4月1日 校名を「東京都板橋区立天津わかしお学校」と変更。
 - 平成19年4月1日 学校教育法の改正により、天津わかしお学校は、病弱児を対象とする特別支援学校に位置付けられた。

3. 健康教育の取り組み

天津わかしお学校では、板橋区の病弱児童の健康回復に向けて、様々な実践を積み重ねてきた。多様な自立活動、運動時間の確保、バランスのとれた栄養ある食事づくり、家庭への働きかけ等、伝統ある取り組みとともに、時代のニーズに合わせた新しい取り組みも取り入れ、学校と寄宿舎が両輪となって効果を求め、成果を上げている。

4. 現状分析

○ 児童数の減少・病類別利用状況の変化

平成27年5月1日現在、天津わかしお学校の児童数は35名である。昭和61年度までは定員80名をほぼ充足していたが、以降、児童数が減少している。病類別では、ぜん息の児童数が減少している。これは気管支ぜん息の治療法が進歩し、転地療養を要せずとも家庭で対応できるケースが増えたことが主な原因である。また、近年は、区内小学校の児童において、肥満の割合は減少傾向にあり、これに伴い肥満の割合が減少している。このような変化が見られるものの、健康課題の一つである「偏食」の児童は増加しているため、過去10数年では、入学する児童の総数は40人前後である。

○ 施設の状況・今後の改修及び維持管理の考え方

校舎棟をはじめとする施設は建設後48年を迎える。平成6年度に行った耐震診断では、補強不要な建築物であり耐震性は確保されているとの結果であったが、これまで建築物の延命化のための大規模改修工事は実施していない。大規模改修工事を実施した場合約10億円を要するが、毎年施設の現状調査を行い、一定規模の改修工事を実施してきており、当面大きな改修を行わなくても施設の現状維持が可能である。

今後も毎年現状調査を行い、必要な改修工事を計画的に実施することで、躯体については60年を超えての使用が可能と考える。

○ 運営体制・運営経費

職員構成は、都費職員23名、区費職員15名（事務、看護師、用務、調理、学習指導講師）の計38名である（27.5.1現在）。

学校運営経費（区費分）は、総額で約1億583万2千円（25年度決算額）、児童一人あたりの経費は、約279万円となっている。このほか都費分（人件費）の経費がかかっている。

5. 今後の方向性について

天津わかしお学校は、年によって児童数の増減はあるものの、これまで一定の利用を得、児童の健康向上に向けて成果をあげてきており、今後も引き続きその役割が期待されている。また、施設の劣化度調査においては、適切なメンテナンスにより今後も使用が可能である、との結果を得ている。こうしたことから、今後も一定の児童数・学校規模を維持し、引き続き、児童の抱える健康課題の解決に向けて支援していくため、次のとおり具体的な取り組みを進めていくこととする。

（1）教育活動・広報活動の充実・強化

- ① 健康教育の質向上とセンター的機能の強化 ② 広報活動の拡大

（2）運営基準の設定

天津わかしお学校から、前籍校等に円滑につなげていくためには、学力向上や社会性の育成等のため、一定の学習集団の確保が必要である。このため、教育的配慮から、以下の運営基準を定めることとし、平成28年4月1日から適用する。

<運営基準>

複式学級の状態が継続するなど、著しく児童数が減少し、回復の見込みがない場合は、閉校を検討する。

※複式学級：隣接学年をあわせた児童数が5名以下の場合には複式学級となる（東京都学級編制基準）

II 今後のスケジュール

- | | |
|-------|------------------------------|
| 12月中旬 | パブリックコメントの募集 |
| 1月 | 第5回検討会（最終報告案の検討）、教育委員会（最終報告） |
| 2月 | 庁議報告（最終報告）
文教児童委員会（最終報告） |

「天津わかしお学校」あり方検討

中間報告

平成27年11月

板橋区教育委員会

目次

1. はじめに	2
2. 天津わかしお学校の概要・沿革	2
3. 健康教育の取り組み	4
4. 現状分析	8
(1) 児童数の減少・病類別利用状況の変化	
(2) 宿泊体験事業への応募状況等	
(3) 施設の状況	
(4) 運営体制・運営経費	
5. 今後の方向性について	14
(1) 教育活動・広報活動の充実・強化	
(2) 運営基準の設定	
6. おわりに	15
■ 参考資料	16
■ 検討会委員名簿・検討経過	17

1. はじめに

板橋区立天津わかしお学校（以下「天津わかしお学校」）は、板橋区の運営する特別支援学校であり、病弱の児童が広い自然の中で寄宿舎生活を通して、その症状を改善することを目的とする学校である。

昭和42年の開校以来、区内児童の健康回復を支援してきたが、昭和47年をピークに、在籍児童数が減少している。平成14年度には、再生経営改革推進計画において「区外施設のあり方検討会」が設置され、保養所やその他の施設とあわせて検討が行われたが、天津わかしお学校は、義務教育施設であり、現状のまま存続し、利用率の拡大を図ることとされた。

その後、平成24年度に策定された、いたばし未来創造プラン「経営革新」編において、児童数の減少や施設の老朽化に加え、23区でも廃止が続く中、施設のあり方について、平成27年度までに検討することとされた。

これを受け、教育委員会事務局内に検討会を設置し、検討を行ってきたが、このたび一定の方向性についてとりまとめたので、中間報告を行うものである。

2. 天津わかしお学校の概要・沿革

(1) 概要

① 設置目的

天津わかしお学校は板橋区の運営する特別支援学校であり、ぜん息、肥満、偏食、虚弱の症状がある児童が、広い自然の中で生活することにより、その症状を改善することを目的とする。

② 教育目標

健康な子 思いやりのある子 学びとる子 けじめのある子

③ 対象学年・定員

板橋区内に住所を有し、かつ、板橋区立小学校に通学している小学校第3学年～第6学年までの児童。定員80人

④ 所在地

千葉県鴨川市天津1990

JR外房線「安房天津」駅下車（新町バス停より徒歩3分）

⑤ 校地と校舎

校地	6,955 m ²	体育館(プール附属屋含)	461 m ²
校舎	1,687 m ²	プール	15m×5m
寄宿舎	1,211 m ²	外部倉庫	15 m ²

(2) 沿革

- 昭和27年4月1日
板橋区で初めての小学校児童の養護施設として「大磯学園」を開設（神奈川県大磯148番地）。以降、15年間、区内の小学校の4・5・6学年該当の児童が、健康の向上を図りながら学習を行う。
昭和42年3月31日、千葉県天津小湊への施設移転に伴い「大磯学園」を閉園。
- 昭和42年4月1日
「東京都板橋区立天津養護学校」を開校。学校教育法に基づく正規の学校として発足（千葉県安房郡天津小湊町1990）。
- 平成17年2月11日
天津小湊町と鴨川市の合併に伴う所在地の変更（千葉県鴨川市天津1990）
- 平成18年4月1日
校名を「東京都板橋区立天津わかしお学校」と変更。従来の天津養護学校という名称は、健康回復という設立目的が区民に理解されにくい面があるため、より親しみやすく分かりやすい校名に変更し、地域や区内学校との連携をさらに深め、これまで以上に児童一人ひとりの健康回復を支援していくこととした。
- 平成19年4月1日
学校教育法の改正により、平成19年3月31日まで「盲学校」「聾学校」「養護学校」に区分されていた制度は、同年4月1日から「特別支援学校」に一本化された。これにより、天津わかしお学校は、病弱児を対象とする特別支援学校に位置付けられた。

<参考> 特別支援学校（病弱）の位置付け・役割

特別支援学校（病弱）は、学校教育法第1条・第72条に定める学校であり、病気等により、継続して医療や生活上の管理が必要な子どもに対して、必要な配慮を行いながら教育を行う。授業では、小・中学校等とほぼ同じ教科学習を行い、自立活動の時間では、身体面の健康維持とともに、病気に対する不安感や自信の喪失などに対するメンタル面の健康維持のための学習を行う。これに対して、健康学園は、所属校の病弱特別支援学級という位置付けであり、教育内容は、上記特別支援学校（病弱）とほぼ同様である。多くの区で設置されていたが、中央区を除いて廃止となっている。

■ 23区における特別支援学校等の運営状況

区	施設名	所在地	種別	開校
中央区	宇佐美学園	静岡県伊東市	健康学園	昭和12年
葛飾区	保田しおさい学校	千葉県安房郡鋸南町	特別支援学校（病弱）	昭和43年
大田区	館山さざなみ学校	千葉県館山市		昭和58年
板橋区	天津わかしお学校	千葉県鴨川市		昭和42年

3. 健康教育の取り組み

天津わかしお学校では、開校以来48年間、板橋区の病弱児童の健康回復に向けて、様々な実践を積み重ねてきた。伝統ある取り組みとともに、時代のニーズに合わせた新しい取り組みも取り入れ、児童一人ひとりの課題解決に向けて、学校と寄宿舎が両輪となって効果を求め、結果を出してきた。以下に、現在の主な取り組みを紹介する。

(1) 学校と寄宿舎生活が一体となった生活リズム (P16 参照)

寄宿舎では、夜8時30分に就寝し、10時間後の6時30分に起床する。心身の十分な休養と成長促進のために、午後8時30分に消灯する。区内の日常生活において、これだけの睡眠時間を毎日確保することは、ほとんど不可能ではないかと考える。この時間は成長期の児童にとっては大変貴重な時間となっている。

また、朝食、昼食、おやつ、夕食の食事時間を、毎日同じ時間に設定していることも児童の生活リズムを整え、健康を回復していく大きな要因となっている。

(2) 校内における主な取り組み

① オリエンテーション

入学後、朝学習の時間を1週間使って「生活」「行事」「保健」「自立」「栄養」の5つの内容について、全学年が一緒になってオリエンテーションを実施している。

例えば、「生活」では、天津での生活の約束を確認したり、集団生活において互いに気持ちよい生活をしていくには、どうしたらよいのかを話し合ったりしている。

「行事」や「自立」については、どのような活動が1年間にあるか、「保健」では、身の回りを清潔に保つことや健康な体づくりについて、「栄養」では、食事の約束などについて説明し、全員で確認している。

② 多様な自立活動

健康回復の時間を重視し、教育活動の様々な時間を使って、自立活動を年間68時間設定し、年間計画に基づいて行っている。

	名称	時間	内容
自立活動	ザ・サン ザ・チャレンジ なかよし	年間20時間	・心理的な安定を図る ・人間関係の形成 ・コミュニケーション能力の育成
	運動の時間	年間28時間	・健康の維持・改善
	天津っ子の時間	年間12時間	・自己の健康課題の理解とその解消
教科外	個別指導の時間	年間8時間	・努力目標の検討と活動後の反省

③ 運動時間の確保

休み時間の全員サッカー、雨天時の玄関ホールでの卓球、ピロティでの一輪車・竹馬、体育館でのボール遊びなど、多様な運動を行う。

④ 携帯計測器の活用

区内企業である株式会社タニタから推奨された携帯計測器「カロリズム」を、学期に1～2回の1週間身に付け、児童の歩数、歩行距離、活動時間帯別消費カロリー、総消費カロリーを明らかにして、その結果を一人ひとりが記録している。この取り組みにより、児童の運動への意欲付けを図るとともに、目に見える成果を児童に実感させることができています。

(3) 寄宿舎での取り組み

① 朝の乾布摩擦・腹式呼吸、ラジオ体操、ヨガストレッチ「わかしおヨガ」

毎日の自立活動の一つとして、起床後の6時50分から7時までの10分間を使って運動する。特に「わかしおヨガ」は、児童自身が選んだ動きを取り入れたもので、意欲的に活動している。



(手ぬぐいで上半身を摩擦する乾布摩擦)



(映像と音楽に合わせてヨガストレッチ)

② 放課後のランニング

毎夕、海岸沿いの遊歩道を使ってのランニングをする。自分の体力に合わせて、1～2キロメートルを走り、1年間で合計300キロメートル走ることを全員が目標にする。2月には「寮対抗の駅伝大会」もある。



③ 休日の地域散策「歩こう会」

寮行事として、自然豊かな天津周辺を、学期に3回程度散策する。山あり、海ありの学校周辺地域を、希望者を募って「歩こう会」を結成し、休日の午後に活動する。1～2時間くらいかけて地域にある水族館、牧場や田畑の広がる山腹を歩き回って、学校や寄宿舎では経験できない「小さな発見」を積み重ねる。希望者での活動であるが、体調を崩している児童以外が、ほとんど参加している。



(田園地帯を散策する「歩こう会」)

④ ピークフローメーターによる気道の状態調べ

ピークフロー値とは、大きく息を吸い込んで速く吐き出すときの息の速さ(強さ)のことである。毎朝と夕方の時間に、ピークフローメーターを使って気道の状態を調べ、ぜん息に対して素早く対応するとともに、ぜん息発作への予防も兼ねている。

⑤ 校内研究「天津PR大使」

担任を中心とした校内研究と並行して、寄宿舎の指導員による校内研究を行っている。内容は「歩こう会」などで、児童が撮りためた写真を編集してDVDにまとめ、年間数回ある前籍校訪問の際に、編集したDVDを学年や学級で視聴しながら、天津わかしお学校の生活の様子や天津周辺の豊かな自然環境を、前籍校の友達に紹介するというものである。自信をもって発表できる児童は、学校を代表して天津を宣伝することから「天津PR大使」として校長より任命し、活動させる。

(4) 地産の食材を生かした栄養ある食事づくり

健康な体づくりのため、食事は大切な柱として捉えている。栄養士が独自の献立を考え、朝食・昼食・おやつ・夕食と、1日4食を提供している。その他、月1回の選択給食やバイキング給食では、栄養バランスや自分の必要なカロリー量を考えながら、児童がメニューを選ぶ。特に、毎食のように出る地元の新鮮な食材を生かした魚類や貝類・海藻類・野菜の料理は、大変おいしく、児童は自分の健康課題(偏食)を克服できるよう、好き嫌いをなく食べる努力をしている。

<平成27年6月のメニューから(抜粋)>

6月 2日(朝)	サンマの干物
6月 3日(昼)	豆アジの玉ねぎソース
6月 4日(夕)	イカの香味焼き
6月12日(朝)	さばの味噌漬け
6月15日(昼)	シーフードサラダ
6月15日(夕)	魚の南部焼き

(5) 家庭への働きかけ

7月の終業式に、保護者を対象とした「親子学習」を開催している。自立活動委員会と養護教諭が中心となり、親子で夏休みの過ごし方（食事・運動・睡眠）について学ぶ機会を設け、家庭での生活リズムを見直すものである。

また、中間帰京日の期間は「シャキッと元気に」という生活記録カードを全児童に配布し、起床時間・朝食・運動・排便・歯みがき・就寝時間を記録させ、天津と同様に、家庭においても望ましい生活習慣や運動習慣が続けられるよう図っている。カードは帰校日に学校が回収・集計して、その結果を再度配布し、保護者や児童の振り返りに活用している。

(6) 効果

① 肥満への効果

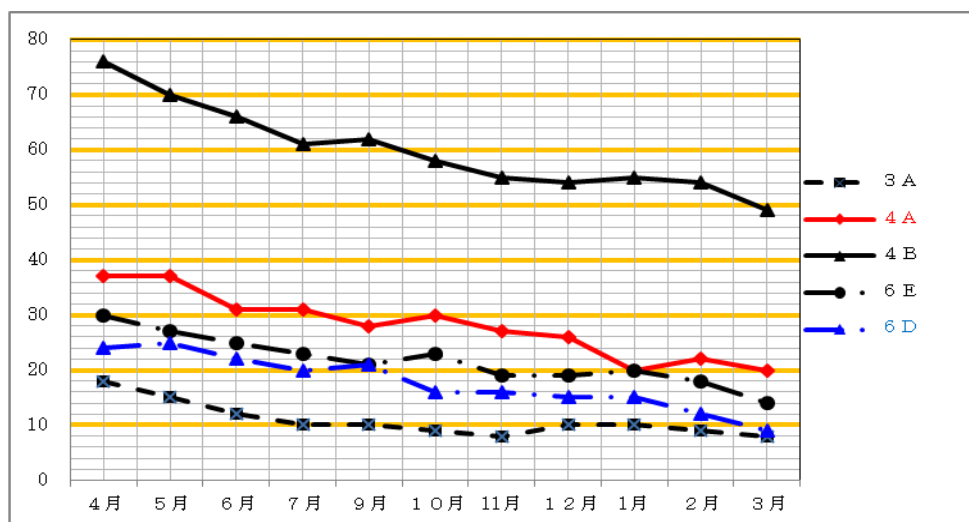
毎月の身体測定結果をグラフ化し、自分の肥満度や体重の変化に目を向けられるようにしている。

肥満傾向児童（抽出）の肥満度の変化は、次のグラフの通りである。

学校生活を行っている間は肥満度の減少が見られるが、帰京中に肥満度が増加に転ずることもある。

しかし、家庭の協力を得たり、児童の肥満への改善意識が高くなってきたりすると、帰京中でも肥満度の増加が見られなくなったり、増加幅が小さくなってきたりする。年間を通してみると、ほとんどの肥満傾向児童に肥満度の減少が見られる。

<平成26年度 肥満度 (%) の変化～20%未満が標準> ※数字は学年



② ぜん息への効果

養護教諭と看護師が、学校医の指導の下、ぜん息児童の薬の管理や体調管理を行っている。毎日記録しているピークフロー値を入学時と卒業時で比べると、全員の児童が、入学時より50～100（L/分）強くなっている。また、入学時に標準値以下であった児童が、卒業時には標準値を超えている児童もいる。このことから、気道の状態が安定してきていることが分かる。

また、発作の回数が減少し、治療薬も中止になる児童もいる。

③ 偏食への効果

偏食傾向の強い児童は、苦手な食べ物も一口ずつから食べ始め、一口から半分、そして、全量へと増やしている。食事時間に同じような課題をもった児童に励まされたり、「天津っ子の時間」で苦手食材の克服メニューを児童自身が考えたり、作ったりすることで、少しずつだが苦手な食材が減ってきている。

4. 現状分析

(1) 児童数の減少・病類別利用状況の変化

平成27年5月1日現在、天津わかしお学校の児童数は35名である。昭和61年度までは定員80名をほぼ充足していたが、以降、児童数が減少している。（P10表参照）

背景として少子化の進行がある。区内の区立小学校児童数は、昭和42年度（天津わかしお学校開校時）に、34,446人であったが、平成27年度は、21,770人（昭和42年度比63.2%）となっている。

病類別では、ぜん息の児童数が減少している。これは気管支ぜん息の治療法が進歩し、転地療養を要せずとも家庭で対応できるケースが増えたことが主な原因である。また、近年は、区内小学校の児童において、肥満の割合は減少傾向にあり、これに伴い肥満の割合が減少している。このような変化が見られるものの、健康課題の一つである「偏食」の児童は増加しているため、過去10数年では、入学する児童の総数は40人前後である。

天津わかしお学校 学級編制（児童数）

	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	合計
27年度	6	7	8	14	35
26年度	4	7	8	13	32

※各学年1学級

（各年度5月1日現在）

天津わかしお学校は、特別支援学校の中で「病弱」を課題とする学校として設置されたため、「肥満」「ぜん息」「偏食」「虚弱」の児童を受け入れてきた。そのため、「肥満」と「偏食」や「ぜん息」と「虚弱」など、これまでもその課題が重複している児童はいた。

しかし、近年、「虚弱」を課題とする児童の入学が減少し、他の課題を重複してもつ児童の入学が増えている。

今後も、こうした天津わかしお学校の教育に対するニーズを把握するとともに、体験入学や面接を丁寧に積み重ね、天津わかしお学校の24時間続く集団生活に適應できるかを、見極めていかなければならない。

(2) 宿泊体験事業への応募状況等

天津わかしお学校への入学にあたって、学校生活についての理解を深めてもらうため、体験事業（宿泊/2泊3日、日帰り/秋・冬2回）を実施している。

平成27年度は、「夏の宿泊体験入学」参加人数枠25名に対して2倍近い応募があった。これは天津わかしお学校の熱心な働きかけの結果であり、校長会や副校長会だけでなく、板橋区小学校PTA連合会の視察などの積み重ねが応募人数の増加につながってきた。また、平成25年度より、参加対象者を第3学年以上から第2学年以上の児童へと拡大し、参加予定児童にキャンセルがあった場合は、キャンセル待ち制度をつくって対応してきたことで、確実に参加人数が確保できるようになったことも、応募人数の増加に寄与していると考えられる。

さらに、天津わかしお学校のような学校がない区市や、過去に閉鎖した区市の保護者から教育内容や入学条件などの問い合わせがあったり、直接来校して学校見学を希望したりする保護者が、毎年複数名いる。

天津わかしお学校 児童数の推移

(各年度延べ人数 ※同児童が2回入学)

	ぜん息	肥満	偏食	虚弱	その他	合計
昭和42年度	21	2	31	9	16	79
昭和43年度	24	5	11	23	20	83
昭和44年度	15	9	15	20	9	68
昭和45年度	29	11	24	15	13	92
昭和46年度	34	11	14	7	11	77
昭和47年度	41	25	13	8	16	103
昭和48年度	37	33	11	8	10	99
昭和49年度	25	26	6	8	5	70
昭和50年度	34	22	11	6	5	78
昭和51年度	45	18	7	6	1	77
昭和52年度	55	17	9	9	0	90
昭和53年度	55	26	3	11	0	95
昭和54年度	43	21	2	11	0	77
昭和55年度	49	22	1	8	0	80
昭和56年度	44	26	2	4	0	76
昭和57年度	50	23	2	2	0	77
昭和58年度	58	19	4	3	0	84
昭和59年度	56	19	7	7	0	89
昭和60年度	57	17	12	2	0	88
昭和61年度	44	20	9	7	0	80
昭和62年度	36	21	6	6	0	69
昭和63年度	39	22	4	9	0	74
平成元年度	35	24	6	7	0	72
平成2年度	40	17	5	8	0	70
平成3年度	31	15	6	11	0	63
平成4年度	27	20	3	6	0	56
平成5年度	21	22	1	3	0	47
平成6年度	17	24	4	3	0	48
平成7年度	14	34	10	3	0	61
平成8年度	13	33	13	4	0	63
平成9年度	16	24	9	3	0	52
平成10年度	20	19	9	3	0	51
平成11年度	19	28	6	5	0	58
平成12年度	14	25	7	5	0	51
平成13年度	19	20	4	4	0	47
平成14年度	18	18	4	2	0	42
平成15年度	15	17	5	3	0	40
平成16年度	14	13	11	2	0	40
平成17年度	19	15	15	1	0	50
平成18年度	14	12	17	2	0	45
平成19年度	11	11	14	4	0	40
平成20年度	14	15	20	3	0	52
平成21年度	8	16	14	2	0	40
平成22年度	9	11	20	0	0	40
平成23年度	8	12	16	3	0	39
平成24年度	9	14	17	2	0	42
平成25年度	10	12	14	2	0	38
平成26年度	12	9	20	0	0	41※
平成27年度	8	13	16	0	0	37

(3) 施設の状況

① 概況

天津わかしお学校は、校舎棟・宿舍棟・体育館棟等からなり、一番古い施設は昭和42年建築となっている。

平成6年に耐震診断を行ったところ、各施設のIs値は下表のとおり0.65～1.59と、全ての施設で構造耐震判定指標(Is値=0.60)を上回っており、耐震性は確保されていた。(④特別教室棟は新耐震基準)

20年以上前の耐震診断ではあるが、当時の診断基準に変更がないため、現在もこの診断結果(Is値)は有効である。

一般的に地震により柱、梁や耐震壁に大きな亀裂が発生した場合は、構造耐力が低下し、Is値に影響があるとされているが、現況において天津わかしお学校に耐震診断に影響がある亀裂は見受けられないこと、今回実施した劣化度調査診断(P12表1、表2参照)の結果でも、著しい数値(コンクリート圧縮強度・コンクリート中性化深さ)の低下が見受けられないことから、有効と判断するのが妥当であると考えます。

■ 施設の概況

	施設	Is値	建築年	床面積
①	校舎棟	0.67	昭和42年	1,444㎡
②	宿舍棟	0.65	昭和42年	951㎡
③	体育館棟(プール付属屋含)	1.59	昭和54年	461㎡
④	特別教室棟	新耐震基準	昭和59年	243㎡
⑤	浴室棟	1.34	昭和42年	150㎡
⑥	渡り廊下棟	0.67	昭和42年	110㎡
⑦	外部倉庫	—	昭和54年	15㎡
合計			—	3,374㎡

※全て鉄筋コンクリート造

※Is値：国が一般的なコンクリート造建築物に求めている構造耐震判定指標(0.60以上)

② 近年の改修工事

平成25年度に校舎棟食堂2階外壁補修等(8,994千円)、平成26年度に、外壁フェンス補強、浴室用給湯設備改修等(21,135千円)を実施している。

③ 劣化度調査の結果(平成27年3月)

改修等の検討を行うため、また海に近い立地条件(塩害)のため、建築物の劣化状態を把握することを目的に調査を実施した。(調査項目:コンクリート圧縮強度・コンクリート中性化深さ測定)

コンクリート圧縮強度については、④宿舍棟3階部分を除き、建設時設計基準強

度の概ね2倍の強度が確認され非常に高強度であること、また、前回調査（平成6年度・耐震診断時）から著しい変化はみられない結果が得られた。（表1参照）

躯体強度が非常に高いため、適切な維持管理を行うことで引き続き供用可能であると判断された。

■ コンクリート圧縮強度結果 (表1)

	施 設	今回圧縮強度平均 [N/mm ²]	前回圧縮強度平均 [N/mm ²]	設計基準強度 [N/mm ²]
①	校舎棟	43.5	44.3	17.6
②	宿舎棟1・2階	55.1	54.2	17.6
③	浴室棟	46.0	54.1	17.6
④	宿舎棟3階	17.8	21.5	17.6
⑤	校舎棟（特別教室棟）	41.3	36.3	20.5
⑥	体育館棟	27.7	29.0	17.6

※ 設計基準強度の数値を上回っていれば良好。

コンクリート中性化深さの測定結果については、全体で中性化が進行しているものの鉄筋までは到達していない。（表2参照）

コンクリート強度が高い場合には緊密で気泡が少なく中性化が進行しにくいことが知られており、コンクリートの高強度が中性化の低い値の一因であるとされている。

■ コンクリート中性化深さ測定結果 (表2)

	施 設	今回中性化深さ最大 [mm]	前回中性化深さ最大 [mm]	かぶり厚さ [mm]
①	校舎棟	5.2	0.0	30.0
②	宿舎棟1・2階	1.1	0.0	30.0
③	浴室棟	4.7	0.0	30.0
④	宿舎棟3階	3.9	0.0	30.0
⑤	校舎棟（特別教室棟）	0.7	1.0	30.0
⑥	体育館棟	22.8	15.0	30.0

※かぶり厚さ（コンクリートの表面から鉄筋までの距離）を超えていなければ良好

一方、目視調査結果では、外壁のひび割れや塗膜劣化、爆裂等が見受けられ、外壁改修工事、屋上防水工事、外部鉄部塗装工事など適切な補修工事の実施が望ましいとされた。

④ 今後の改修及び維持管理の考え方

一般的に建築物を60年以上使用するのであれば、中間期である30年目に大規模改修工事を実施することが望ましい。

天津わかしお学校の校舎棟をはじめとする施設は建設後48年を迎える。平成6

年度に行った耐震診断では、補強不要な建築物であり、耐震性は確保されているが、これまで建築物の延命化を図るための大規模改修工事は実施していない。

天津わかしお学校において大規模改修工事を実施した場合、経費的には約10億円を要するが（延床面積約3,300㎡・300千円/㎡）、毎年施設の現状調査を行い、一定規模の改修工事を実施してきていることから、当面は大きな改修を行わなくても施設の現状維持が可能であると考えている。

また、劣化度調査（平成27年3月）の報告書において、「適切な維持管理を行うことで、継続して建物を使用し続けることに支障がない」との記載もあり、今後とも毎年施設の現状調査を行うとともに、必要な改修工事を計画的に実施することで、躯体については60年を超えての使用が可能と考える。

（4） 運営体制・運営経費

① 運営体制

天津わかしお学校の職員構成は、下表のとおりである。

このうち、調理・用務職員については、現地採用となっており、今後、学校運営を継続していくためには、職員体制のあり方が課題となる。

■ 職員構成 (27.5.1 現在)

職	人数	職	人数
校長	1名	事務 [※]	2名
副校長	1名	栄養士	1名
学級担任教諭	4名	寄宿舎指導員	11名
専科教諭	2名	調理 [※] （臨時4名）	8名
養護教諭	1名	看護師 [※] （非常勤2名）	3名
非常勤教員	1名	用務 [※]	2名
学習指導講師 [※]	1名	合計	38名

※事務1、看護師、用務、調理、学習指導講師は区費職員。その他は都費職員

② 運営経費

学校運営経費（区費分）は、総額で約1億583万2千円（25年度決算額）、児童一人あたりの経費は、約279万円となっている。このほか都費分（人件費）の経費がかかっている。

5. 今後の方向性について

平成14年度の「区外施設のあり方検討会」における検討結果においては、学校を存続とし、利用率の拡大を図ることとされた。その後、健康課題の変化、施設の経年劣化等、様々な環境変化がある中、利用率拡大に向けて、体験入学の充実やPRの強化等に努めてきた。

その結果、年によって児童数の増減はあるものの、これまで一定の利用を得、児童の健康向上・家庭支援において成果をあげてきており、今後も引き続きその役割が期待されている。また、施設の劣化度調査においては、適切なメンテナンスにより今後も使用が可能である、との結果を得ている。

こうしたことから、今後も一定の児童数・学校規模を維持し、引き続き、児童の抱える健康課題の解決に向けて支援していくため、天津わかしお学校の役割・運営方法を明確化し、次のとおり具体的な取り組みを進めていくこととする。

(1) 教育活動・広報活動の充実・強化

① 健康教育の質向上とセンター的機能の強化

天津わかしお学校における健康教育については、一層の質向上に取り組んでいく。

取り組みの一環として、株式会社タニタとの連携事業を推進する。板橋区と、区内企業である株式会社タニタとは、板橋区民の健康づくりの推進に向けた協定を締結している。天津わかしお学校では、これまでも、タニタの携帯計測器「カロリズム」を活用して児童の健康意識の向上に取り組んできたが、今後もさらなる連携強化による事業展開を検討し、児童の健康・体力向上をめざしていく。

また、教育内容の成果については、区内小中学校に広くフィードバックし、病弱・身体虚弱のある児童生徒について相談・支援を行うなど、健康教育のセンター的機能の強化に取り組んでいく。

あわせて、近年、23区で健康学園（P3参照）が閉校となる中、他自治体からの児童の受け入れについても、ニーズをふまえ検討していくこととする。

② 広報活動の拡大

天津わかしお学校の教育内容について、区ホームページ等の広報媒体や校長会等を通じて情報発信を積極的に行うほか、PTA関係者への働きかけを継続して行っていく。PTA関係者や保護者のもつネットワークは、迅速で幅広く、天津わかしお学校の教育内容を広く知ってもらう上で、大きな効果があると考えられる。

また、小児療育医療機関や教育相談所、児童相談所、子ども家庭支援センター等へも、天津わかしお学校の存在意義や入学条件等の正しい知識を周知していく活動を行っていく。

(2) 運営基準の設定

天津わかしお学校の学級編制は1学級20名で、4学級80名の定員となっている。また、学校規模は30名以上が原則となっている（東京都基準）。

天津わかしお学校から、前籍校等に円滑につなげていくためには、学力向上や社会性の育成等のため、一定の学習集団の確保が必要であると考えます。

このため、天津わかしお学校の運営においては、教育的配慮から、以下の基準を定めることとし、平成28年4月1日から適用する。

<運営基準>

複式学級の状態が継続するなど、著しく児童数が減少し、回復の見込みがない場合は、閉校を検討する。

※複式学級：隣接学年をあわせた児童数が5名以下の場合は複式学級となる（東京都学級編制基準）

6. おわりに

天津わかしお学校は、開校以来、児童一人ひとりの課題解決に向けて、学校と寄宿舎が両輪となって健康教育活動に取り組み、児童の健康向上・家庭支援において成果をあげてきた。

近年、在籍児童数の減少が見られるものの、40人前後の規模を維持していることや、体験入学への応募状況、保護者・学校関係者等の声から、今後も学校に対する一定のニーズや期待があるものと考えます。また、板橋区においては、児童の不登校対策、基礎学力の定着、家庭の教育力向上への支援等が、重点的に取り組むべき課題となっており、こうした観点からも、区立全小学校と連携した天津わかしお学校の教育活動は、今日的な役割を担っている。

今後も、学校施設が安全かつ有効に活用できる間は、天津わかしお学校を拠点として、未来を担う子どもたちの健やかな成長に向けて、家庭と連携した板橋区立小中学校での生活習慣の改善を含めた健康教育活動の更なる充実に取り組んでいく。

【参考】

天津わかしお学校

生活時程表

<授業日>

寮

起床	6:30
検 温	6:30~6:40
健康観察・洗面	6:40~6:50
自立活動	6:50~7:00
清 掃	7:00~7:15
朝 食	7:40~8:00
治療・自由時間	8:00~8:20



学校

指導朝会・朝学習	8:30 ~ 8:45
学級指導	8:45 ~ 8:50
第1校時	8:50 ~ 9:35
第2校時	9:40 ~ 10:25
中休み	10:25 ~ 10:40
第3校時	10:45 ~ 11:30
第4校時	11:35 ~ 12:20
昼 食	12:25 ~ 12:55
昼休み	12:55 ~ 1:20
清 掃	1:20 ~ 1:40
第5校時	1:45 ~ 2:30
第6校時	2:35 ~ 3:20
学級指導	3:20 ~ 3:35
最終下校	3:50

寮

おやつ/歯みがき	4:00~4:15
自由時間	4:15~5:20
整 理	5:30~5:50
夕 食	5:55~6:20
食番・歯みがき	6:20~6:30
自習時間	6:30~7:00
検温・入浴・自由時間	7:00~8:00
消灯準備・終礼	8:00~8:30
消 灯	8:30

5・6年は 自主学習時間	9:00まで
-----------------	--------



5校時日最終下校	3:00
----------	-------------

<休日>

寮

起床	7:00
自立活動	7:20 ~ 7:35
朝 食	7:40 ~ 8:00
自習時間	9:00 ~ 10:00
清 掃	11:45 ~ 11:55
昼 食	12:25 ~ 12:55
おやつ	3:00 ~ 3:15

■ 「天津わかしお学校」あり方検討会 委員名簿

職	所属・役職等	
会 長	教育委員会事務局 次長	寺西幸雄
副会長	教育委員会事務局 学務課長	森下真博 (25年度)
		榎木恭子
委 員	教育委員会事務局 教育総務課長	小林 緑
委 員	教育委員会事務局 指導室長	矢部 崇 (25・26年度)
		栗原 健
委 員	教育委員会事務局 新しい学校づくり担当課長	田中 光輝 (25年度)
	教育委員会事務局 新しい学校づくり課長	新部 明
委 員	板橋区立天津わかしお学校長	本間信治 (25・26年度)
		木村高一郎

■ 検討経過

開催日	主な検討内容
25年度	
○ 第1回 平成26年3月13日(木)	天津わかしお学校の経緯・現状、教育内容と効果 課題について
26年度	
○ 第2回 平成27年1月9日(金)	天津わかしお学校の現状(在籍児童の状況、運営経費、 職員配置の状況)、課題(児童数の減少、施設の老朽化)、 今後の方向性について
○ 第3回 平成27年3月26日(木)	天津わかしお学校の施設の課題(建物劣化調査結果等) 今後の方向性について
27年度	
○ 第4回 平成27年8月31日(月)	中間報告(案)について